

# 門 (寺社の門を中心として)

も-1

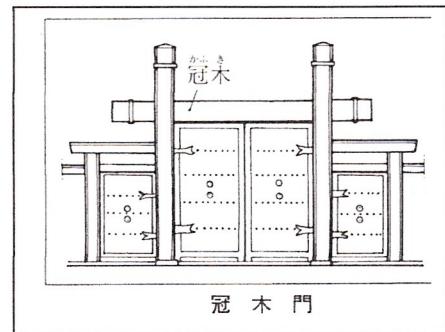
門の分類・名称は多種・多様で、形式・位置・用途・設置した像・固有名詞によるものなど、数限りなくある。

門の正面の柱間のことを間（けん）といい、柱間が一つの場合「一間」という（三十三間堂）。また一柱間が扉となっていて人が通れるようになっている場合「一戸」といい、通れる柱間が3つあれば「三戸」という。

## [ I ] 門の種類

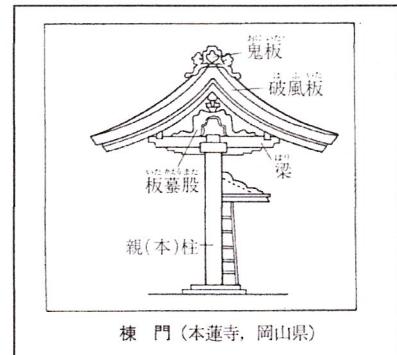
### 1. 冠木門 (かぶきもん)

- 冠木とよぶ横木を2本の門柱の上方につらぬき渡してある門。屋根はない。



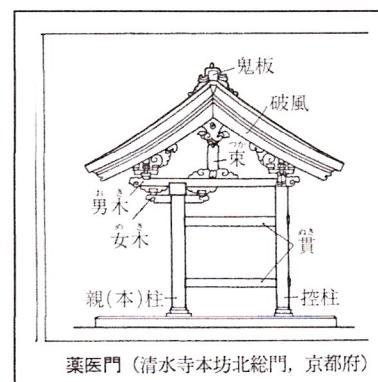
### 2. 棟門 (むなもん・むねもん)

- 2本の主柱の上に切妻屋根をのせた門。
- 本柱上部に冠木をわたし、梁でとめる。
- 梁に板臺股（いたかえるまた）をのせて棟木を受け、梁の端に桁を渡して切妻屋根をのせる。
- 柱は本柱2本のみ。



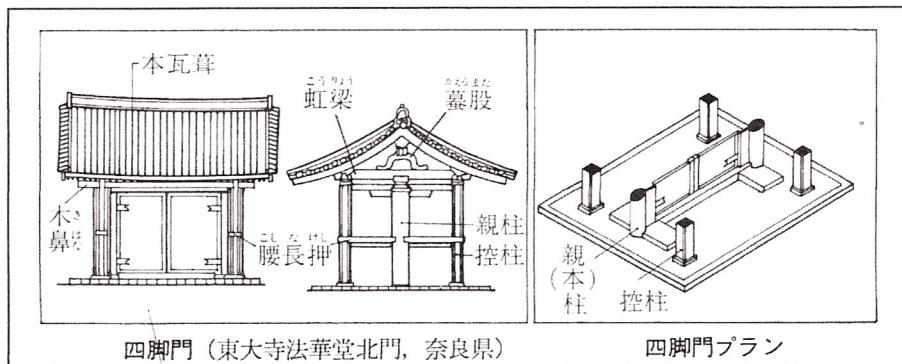
### 3. 藥医門

- 倒壊しやすい棟門の欠点を補い、本柱の後方に控柱を建てた門。
- 本柱が門の中心線上から前方にずれる。
- 本柱と控柱を結ぶ梁の中間に束（つか）をのせて切妻屋根をのせた門。
- すなわち、棟は本柱の垂直線上から後方にずれている。



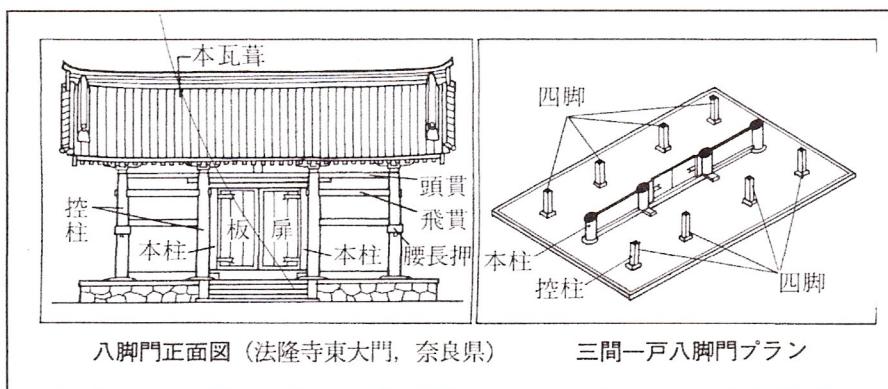
#### 4. 四脚門 (しきやくもん)

- 一間一戸（本柱2本で一つの門）の門で、控柱が本柱の前後に2本ずつで計4本となるので、これを脚（あし）とみて四脚門と呼ぶ。
- 屋根は切妻造。
- 本格的な四脚門は柱と柱を頭貫（かしらぬき）で結び、斗拱を組む。
- 平安時代には原則として三位以上、大臣級の屋敷の正門に許された門。
- 鎌倉以後は將軍家の正門・勅使門、格式ある寺家の正門などに使われた。



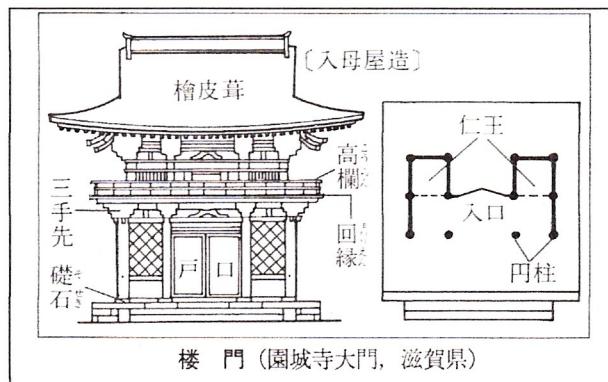
#### 5. 八脚門 (はつきやくもん)

- 控柱が本柱の前後に各4本、計8本ある門。
- 本柱は4本で柱間三間、出入口は中央一間なので三間一戸。
- 古来もっとも多い形式でまれに三間三戸もある。



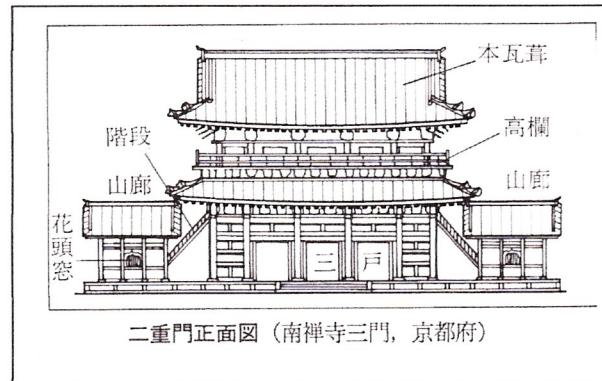
#### 6. 横門 (よこもん)

- 下層に屋根のない二階建ての門。
- 二階には高欄つきの回縁がある。
- ほとんどが三間一戸の形式。なかには五間三戸のものもある。



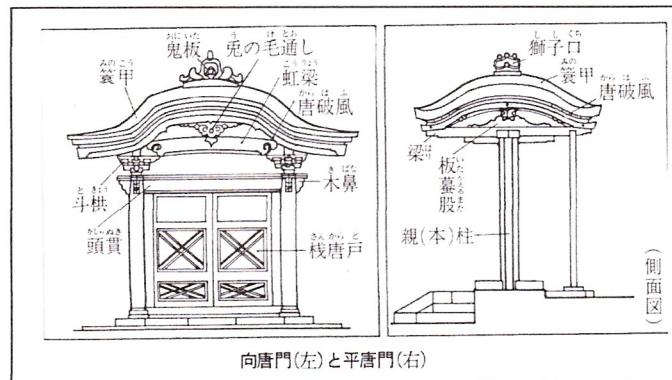
## 7. 二重門

- 上層下層とも屋根のある門で、門のなかでは最大規模のもの。
- 入母屋造が主流。
- 五間三戸、三間一戸、三間三戸などがある。



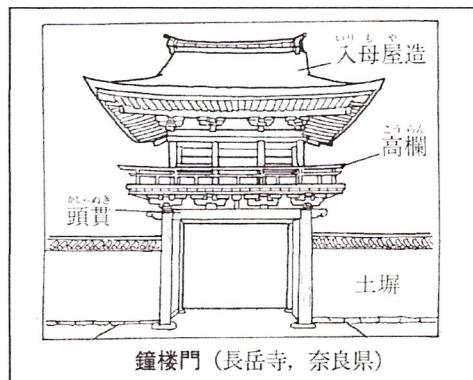
## 8. 唐門

- 唐破風造の門で、平安時代末期に出現した。
- 両側面が唐破風で、平入りのものを「平唐門」といい
- 唐破風が正面の前と後ろにあって妻入りのものを「向唐門」(むこうからもん) という。



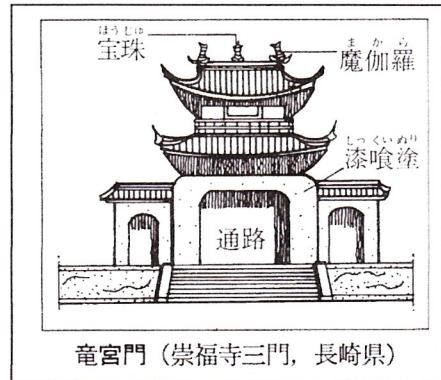
## 9. 鐘樓門

- 階上が銅鐘をつるした鐘撞堂で、
- 階下は通行するための門になっている。  
(川越・喜多院は袴腰はきの門)



## 10. 竜宮門

- 竜宮造で下部は漆喰造。
  - アーチ型通路を持つ。
- (日光・輪王寺大猶院靈廟皇嘉門一楼門)



## [ II ]門の呼び名

### 1. 山門と三門

- 山門**・・・寺院の門。寺に寺号のほかに○○山と山号をつけたために生じた呼び名。
- 三門**・・・寺院の本堂（涅槃とする）に至るまでに通らねばならない空門・無相門・無作門の三解脱門を略していう。

建築史的見解では、初期の寺院の門構えは南面する正門、東西2つの副門から構成されており、これを称して三門と呼んだという。時代が下ると左右に脇門が付属する大門の形となり、さらに大門のみが残る形となつたが、三門の呼び方は残ったとされる。

そのほか、三門の名称の由来には、

- ・貪・瞋・痴の三毒を解脱する境界の門、
  - ・声聞・緣覚・菩薩の三乗が通る門
- などの説がある。

三門には扉を設けないものがあるが、これは一切衆生が仏門に入ることを拒まない仏の大慈悲心を表すものといわれる。

### 2. 仁王門と二天門と隨身門

- 仁王門**・・・(二王門とも) 仏法の守護神である阿形と吽形の二王（金剛力士）像を左右に安置した門。
- 二天門**・・・門の左右に四天王のうちの二天像を安置したもの。
- 隨身門**・・・神社で、隨身姿の二神の像を左右に安置する門。

仏寺の仁王門にならったものといい、この二神を俗に矢大臣・左大臣ともいう。

## [ III ]寺社以外の門（名称を中心として）

- 禁門**・・・ 皇居の門。蛤御門
- 勅使門**・・・ 勅使が寺院参向の際に使われる門。
- 凱旋門**・・・ 戰勝などを記念して広場に建てられる門。

- 城門**・・・ 城郭の門。虎口に建てられた。御殿や天守の次に格式の高い建物とされた。
  - ・大手門—— 城郭の表口とされる虎口に建てられた門のこと。正門。追手門とも書く。
  - ・搦手門—— (からめてもん) 城郭の裏口に当たる搦手口に設けられた。
- 総門**・・・ 邸宅・城郭・寺院などの外構え(外囲い)にある正門。大門(おもん)とも呼ばれる。
- 御守殿門**・・・ 御守殿の門。門が丹塗りなので赤門と呼ばれる。
- 南大門**・・・ 仏教寺院や都城などで、南に面した正門のこと。
- 東大門**・・・ 寺院などの東に面した門のこと。
- 神門**・・・ 神社に設けられる門。
  - ・隨身門(すいしんもん、すいじんもん) - 神門のうち左右に隨身を置いた門。
- 營門**・・・ 兵営地・陣営地の門。

### ●長屋門

長屋門は近世諸大名の武家屋敷門として発生した形式で、江戸時代に多く建てられた。諸大名は、自分の屋敷の周囲に、家臣などのための長屋を建て住まわせていたが、その一部に門を開いて、一棟とした物が長屋門の始まりである。

その後、長屋門は上級武士の住宅の表門の形式として広く利用されるようになっていった。武家屋敷の長屋門では、門の両側部分に門番の部屋や仲間部屋が置かれ、家臣や使用人の居所に利用された。侍屋敷の長屋門は武家屋敷のものより小規模であるが、基本的な構成はほぼ同じである。



武家屋敷の長屋門（柏原藩織田家旧邸）